

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実践報告書

- 1 学校名：鳥取市立富桑小学校
- 2 実施日時：2019年11月20日（水）10：30-15：15
- 3 対象：全校児童 180名
- 4 派遣講師：村上 清加 氏（パラ陸上競技/走幅跳）  
村上 健二 氏（ボブスレー/パラ陸上コーチ）
- 5 授業内容：現役のアスリートと、アスリートを支えるコーチによる講演会

2019年11月20日（水）に鳥取市立富桑小学校にて、パラ陸上の走り幅跳びの村上清加さんと、そのコーチでありボブスレーの強化選手である村上健二さんによる、オリパラ教育が行われました。村上清加さんは、25歳のときに電車に轢かれる事故に遭い、右脚の切断を余儀なくされました。事故の直後は、全く現実を受け入れることができず、毎日病室で泣く日々を送っていたといいます。しかし、あるとき、このまま一生泣いて暮らすのかと自問し、せつかくなら笑って生きていきたいと思い立ち、今まで自分を支えてくれた家族や友人たちのためにも、事故に遭う前の明るかった自分を取り戻そうと決心されました。

まずは歩くことができるようにリハビリを開始しましたが、義足を装着したらすぐに走ることができるというものではなく、歩くだけでも1年かかり、さらに半年の歳月をかけてようやく100メートルほど走ることができたといいます。また、もともとスポーツが好きだったこともあり、とにかく友人を増やしたいという一心から、勇気を奮い立たせて村上清加さんと同じような切断者のスポーツクラブを尋ね、親身になって義足を作ってくれる義足技師の先生や、自分と同じように障害を持ちながらスポーツを楽しむ仲間と出会い、より一層陸上競技に励んだそうです。そして、パラ陸上の世界選手権で日本代表を獲得するなど、大きく飛躍されていきました。始めは小さな一歩だったが、それが大きな一歩へと結びついたので、みなさんも小さな努力の積み重ねを大切にしたいと、子どもたちへメッセージを送っていただきました。

講演会の中で、女子パラ陸上では、膝上切断者のクラスは100m走か走り幅跳びの2つの種目しかなく、まだまだ課題は残されていることや、障がい者への偏見がまだ残っているところもあり、辛い経験をしたことがあることなども話していただきました。しかし、障がい者でも夢に向かって努力する権利、好きなことをやって楽しく暮らす権利はあるという強い思いを持ち、現在も競技を続けていらっしゃいます。村上清加さんの真っ直ぐな気持ちは、多くの子どもたちの心に響いたようでした。

講演会のあとは、村上清加さんのコーチを務めている村上健二さんによる、走り方の指導やボブスレーという競技についての説明が行われました。早く走るための方法や、あまり馴染みのないボブスレーという競技の話に、子どもたちは興味津々の様子でした。質疑応答では、「義足は痛くなったりしないですか？」「義足で不便だと思うことはありますか？」など、多くの子どもたちが積極的に質問をし、それらの質問全てに丁寧に答えていただきました。2名のアスリートによるオリパラ教育は、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

6 実践の様子



【 教員からの講師紹介 】



【 講師の村上清加さんと村上健二さん 】



【 村上清加さんの講演の様子 】



【 質疑応答の様子 】



【 村上健二さんの講演の様子 】



【 走り方の指導の様子 】



【 村上さんの話を熱心に聴く子どもたちの様子 】



【 義足について説明される村上清加さん 】